

朝日ライフ DC日経平均ファンド

追加型投信／国内／株式／インデックス型

交付運用報告書

第19期(決算日2023年11月15日)

作成対象期間(2022年11月16日～2023年11月15日)

第19期末(2023年11月15日)	
基準価額	37,801円
純資産総額	1,616百万円
第19期	
騰落率	21.7%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しています。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めています。運用報告書(全体版)は、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードすることができます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記ホームページの「ファンド情報」等から当ファンドのファンド名称を選択することにより、運用報告書(全体版)を閲覧・ダウンロードすることができます。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「朝日ライフ DC日経平均ファンド」は、このたび、第19期の決算を行いました。

当ファンドは、国内の上場株式のうち、日経平均株価に採用されている銘柄に投資し、日経平均株価の動きに連動する投資成果を目指して、運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも、一層のお引立てを賜りますようお願い申し上げます。

朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
東京都杉並区和泉一丁目22番19号

<お問い合わせ先>

ホームページ：<https://www.alamco.co.jp/>

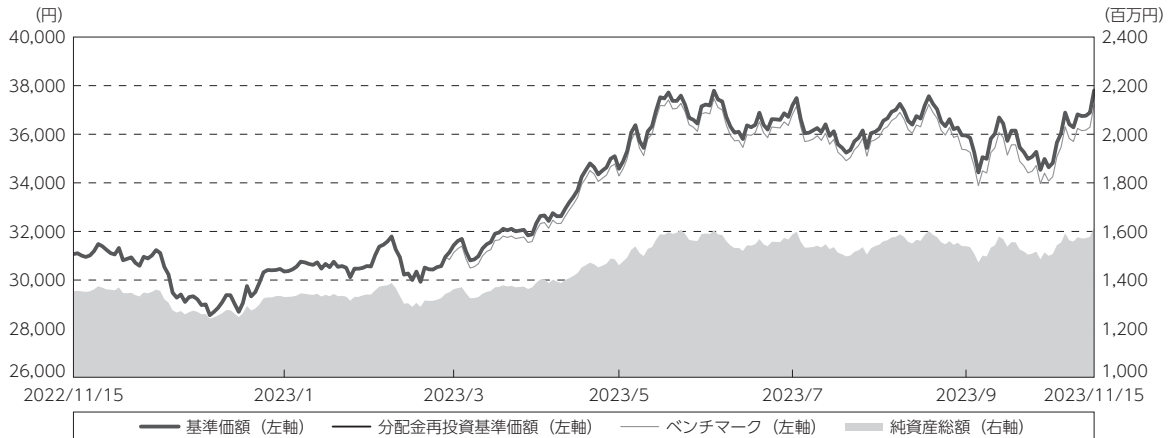
フリーダイヤル：0120-283-104

〔受付時間〕 営業日の午前9時～午後5時

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2022年11月16日～2023年11月15日)



期首：31,069円

期末：37,801円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：21.7% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) ベンチマークは「日経平均株価」です。ベンチマークの詳細は後掲の「ファンドのベンチマークについて」をご参照ください。

○基準価額の主な変動要因

主な上昇要因として、日銀による金融緩和維持の方針、米銀行の経営破綻による金融システム不安の低下、著名投資家による日本株追加購入の報道、個人消費や設備投資の高い伸び率、円安ドル高の進行、日銀の政策修正への警戒感の低下などが挙げられます。

主な下落要因として、日銀の政策修正による円金利の上昇や円高進行、欧米金融機関の経営破綻懸念に伴う金融システム不安の強まり、米金融引き締め長期化懸念、米国債の格下げによる世界的なリスク回避の動き、米国政府機関の一部閉鎖リスクによる米国株式の下落などが挙げられます。

1万口当たりの費用明細

(2022年11月16日～2023年11月15日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	92	0.275	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(39)	(0.116)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(39)	(0.116)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(15)	(0.044)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.004	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(株 式)	(0)	(0.001)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際に支払う手数料です。
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(1)	(0.003)	
(c) そ の 他 費 用	4	0.011	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(2)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用です。
(そ の 他)	(2)	(0.005)	信託事務の処理等に関するその他の費用
合 計	97	0.290	
期中の平均基準価額は、33,411円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます。)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。

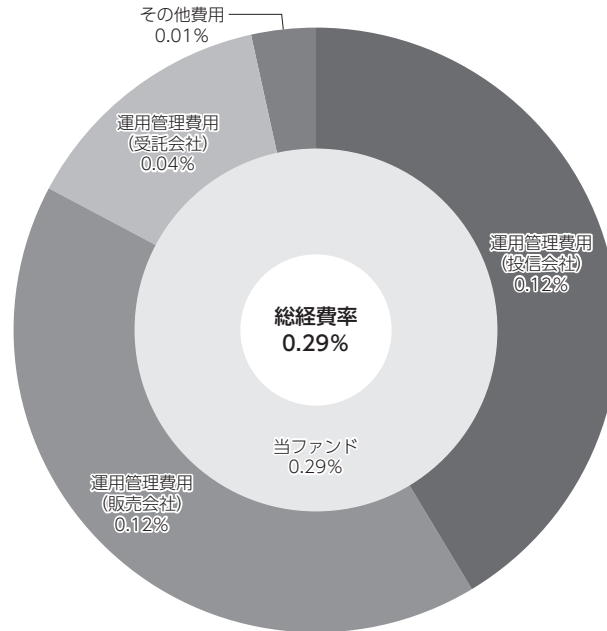
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます。)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は0.29%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年11月15日～2023年11月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年11月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。
- (注) ベンチマークは「日経平均株価」です。ベンチマークの詳細は後掲の「ファンドのベンチマークについて」をご参照ください。

	2018年11月15日 決算日	2019年11月15日 決算日	2020年11月16日 決算日	2021年11月15日 決算日	2022年11月15日 決算日	2023年11月15日 決算日
基準価額 (円)	22,639	24,630	27,862	32,438	31,069	37,801
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	8.8	13.1	16.4	△ 4.2	21.7
ベンチマーク騰落率 (%)	—	6.9	11.2	14.9	△ 6.0	19.8
純資産総額 (百万円)	1,080	1,110	1,242	1,418	1,354	1,616

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しています。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) ベンチマークは「日経平均株価」です。ベンチマークの詳細は後掲の「ファンドのベンチマークについて」をご参照ください。

投資環境

(2022年11月16日～2023年11月15日)

当期の国内株式市場は、日経平均株価が27,990.17円(2022年11月15日)から始まり、日銀が2022年12月金融政策決定会合においてYCC(イールドカーブ・コントロール)の長期金利の許容変動幅拡大を決定したことによる円金利の上昇や円高進行への警戒感から下落し、2023年の年明け1月4日に日経平均株価は期中最安値となる25,716.86円をつけました。

1月下旬以降は、日銀の正副総裁候補の所信聴取における金融緩和を継続する趣旨の発言などが上昇要因となりました。3月に入り、欧米金融機関の経営破綻懸念に伴う金融システム不安が強まり下落しましたが、米財務長官が中小銀行の預金大量流出に預金者保護が適用されると示し金融システム不安が後退したことや、4月中旬に著名投資家ウォーレン・バフェット氏による日本株追加購入検討の報道が出たことなどから上昇しました。

5月に入っても、1-3月期GDP(国内総生産)が個人消費や設備投資など内需の寄与により市場予想を上回ったことや、日銀が6月の金融政策決定会合にて金融緩和策を維持すると表明したことから上昇基調で推移し、7月3日に日経平均株価は期中最高値となる33,753.33円をつけました。

7月前半は、米雇用関係指標で労働市場の堅調さが示されたことなどから米金融引き締め長期化懸念が強まり下落しましたが、その後は円安基調に転じたことなどから再度上昇に転じました。8月に入ると、大手格付け会社フィッチ・レーティングスが米国債の格付けを引き下げたことを受けて世界的にリスク回避の動きが広まったことなどから下落しました。

9月中旬に植田日銀総裁が新聞のインタビューでマイナス金利の早期解除の可能性を示すと銀行株が上昇したことから堅調に推移しましたが、9月下旬は米国の政府機関が一部閉鎖されるリスクが警戒されたことなどから米国株式の下落がマイナスに働き、反落しました。

10月に入り、日銀の政策修正観測が強まったことなどから下落基調が続きましたが、10月末の日銀金融政策決定会合を通過し政策修正への過度な警戒感が和らぐと上昇に転じ、期末である11月15日に日経平均株価は33,519.70円で終了しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2022年11月16日～2023年11月15日)

主要投資対象である朝日ライフ 日経平均マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券に投資することにより、実質的な運用をマザーファンドで行っています。また、資金流入への対応と株式の実質組入比率を高める観点から、日経平均先物取引を活用し、先物を含む実質株式組入比率については概ね高水準を維持しました。

マザーファンドは日経平均株価の動きに連動する投資成果を目指して運用を行いました。期首に225銘柄への投資でスタートし、期末も全225銘柄への投資を継続しております。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2022年11月16日～2023年11月15日)

当ファンドは「日経平均株価」をベンチマークとします。

コメント・グラフは、基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。

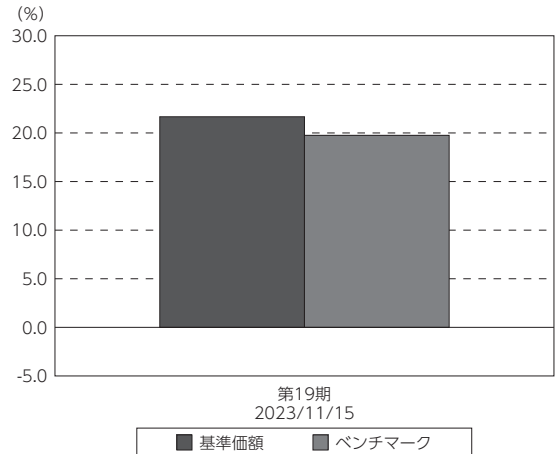
ベンチマークが19.8%上昇したのに対し、基準価額は21.7%の上昇となり、ベンチマークを1.9%上回る結果となりました。マザーファンドの組入銘柄にかかる受取配当金は、マザーファンドに収益計上され、当ファンドの基準価額にも反映されます。一方でベンチマークは受取配当金を加味していないため、この差がプラス要因となりました。また、ファンドから信託報酬等のコストが控除されたことが、マイナス要因となりました。

実績トラッキングエラー

過去1年(2022年11月～2023年10月)の実績トラッキングエラーは1.00%(年率)となりました。

※実績トラッキングエラーとは、ファンドの基準価額騰落率からベンチマークの騰落率を差し引いたベンチマークとの差異の振れの度合いを示す指標で、この値が低いほど、ファンドのベンチマークに対する連動性が高いと考えることができます。

基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込み(税込み)です。

(注) ベンチマークは「日経平均株価」です。ベンチマークの詳細は後掲の「ファンドのベンチマークについて」をご参照ください。

分配金

(2022年11月16日～2023年11月15日)

当期の分配金につきましては、収益分配方針に基づき、基準価額水準などを勘案して、見送らせていただきました。

なお、収益分配にあてず信託財産内に留保した利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第19期
	2022年11月16日～ 2023年11月15日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	28,830

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益および当期の収益以外は、小数点以下を切捨てて表示しているため、合計した額が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

マザーファンドと日経平均先物への投資により株式の実質組入比率を高位に保ち、日経平均株価に連動した投資成果を目指します。マザーファンドにつきましては、日経平均株価採用銘柄への投資を行うことにより、日経平均株価の動きに連動する投資成果を目指します。その際、連動性を損なわない範囲で、信用リスクが高いと判断される銘柄を除外する場合があります。

お知らせ

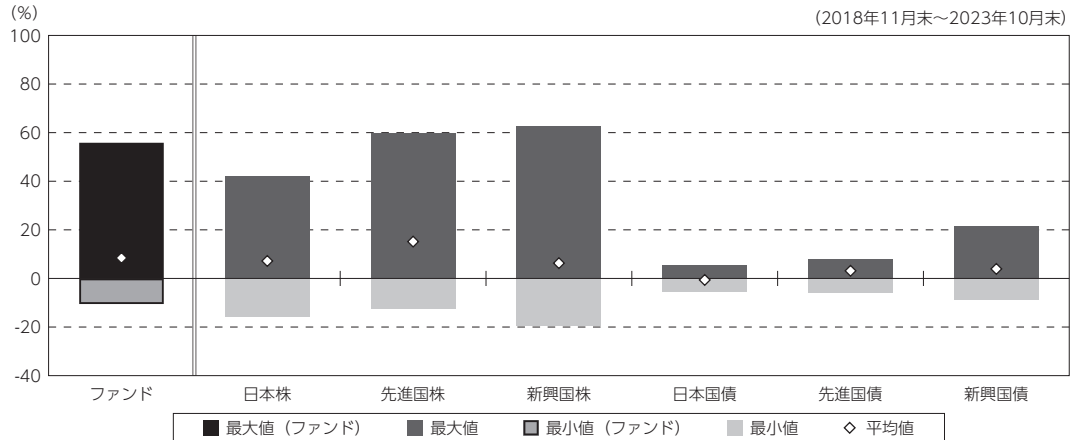
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式／インデックス型	
信託期間	無期限	
運用方針	日経平均株価の動きに連動する投資成果を目指して、運用を行います。	
主要投資対象	朝日ライフ DC日経平均ファンド	朝日ライフ 日経平均マザーファンド受益証券
	朝日ライフ 日経平均マザーファンド	国内の上場株式のうち、日経平均株価に採用されている銘柄
運用方法	マザーファンド受益証券への投資を通じて、日経平均株価の動きに連動する投資成果を目指して、運用を行います。	
分配方針	毎決算時(11月15日。休業日の場合は翌営業日)に、配当等収益を中心に、基準価額水準等を勘案して、分配を行う方針です。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わないこともあります。	

(参考情報)

○ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	55.8	42.1	59.8	62.7	5.4	7.9	21.5
最小値	△ 10.5	△ 16.0	△ 12.4	△ 19.4	△ 5.5	△ 6.1	△ 8.8
平均値	8.4	7.2	15.2	6.3	△ 0.6	3.1	3.9

グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

(注) 全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年11月から2023年10月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年11月15日現在)

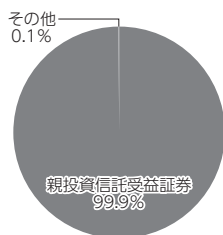
○組入上位ファンド

銘柄名	第19期末
朝日ライフ 日経平均マザーファンド	99.9%
組入銘柄数	1銘柄

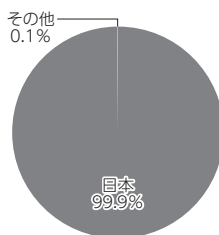
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

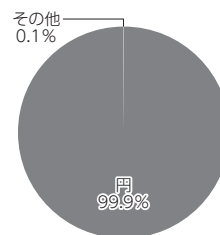
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

純資産等

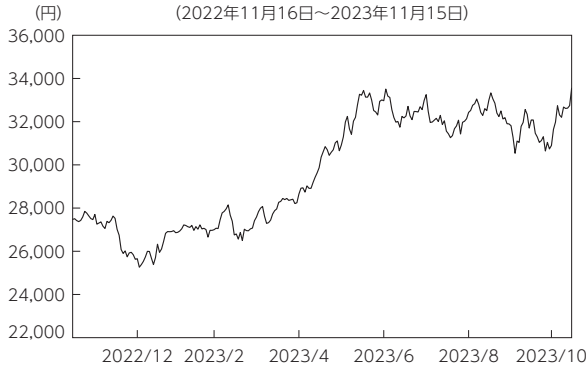
項目	第19期末
	2023年11月15日
純資産総額	1,616,523,007円
受益権総口数	427,640,382口
1万口当たり基準価額	37,801円

(注) 期中における追加設定元本額は50,277,151円、同解約元本額は58,452,558円です。

組入上位ファンドの概要

朝日ライフ 日経平均マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2022年11月16日～2023年11月15日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	1 (0) (1)	0.004 (0.001) (0.003)
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他)	1 (1)	0.005 (0.005)
合 計	2	0.009

期中の平均基準価額は、29,607円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含みます。)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入しています。
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含みます。)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入しています。

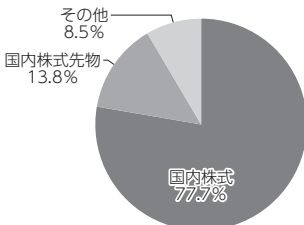
【組入上位10銘柄】

(2023年11月15日現在)

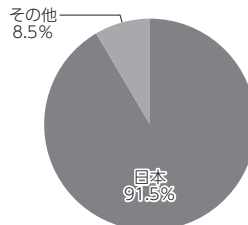
	銘 柄 名	業 種 / 種 別 等	通 貨	国 (地 域)	比 率
					%
1	日経225	株価指数先物(買建)	円	日本	13.8
2	ファーストリテイリング	小売業	円	日本	8.6
3	東京エレクトロン	電気機器	円	日本	5.6
4	アドバンテスト	電気機器	円	日本	3.0
5	ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	2.8
6	KDDI	情報・通信業	円	日本	2.2
7	信越化学工業	化学	円	日本	1.9
8	ダイキン工業	機械	円	日本	1.8
9	ファナック	電気機器	円	日本	1.5
10	TDK	電気機器	円	日本	1.5
	組入銘柄数		226銘柄		

- (注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しています。

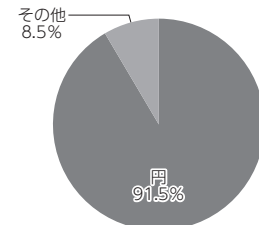
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は純資産総額に対する割合です。

＜ファンドのベンチマークについて＞

「日経平均株価(日経平均)」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、日経平均自体および日経平均を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。

「日経」および「日経平均」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属します。

ファンドは、朝日ライフ アセットマネジメント株式会社の責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用および受益権の取引に関して一切の責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、日経平均を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、日経平均の構成銘柄、計算方法、その他日経平均の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数(TOPIX) (配当込み)

東証株価指数(TOPIX) (配当込み)は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。

○MSCI - KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)

MSCI - KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA - BPI 国債

NOMURA - BPI 国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)
JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド(円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。